

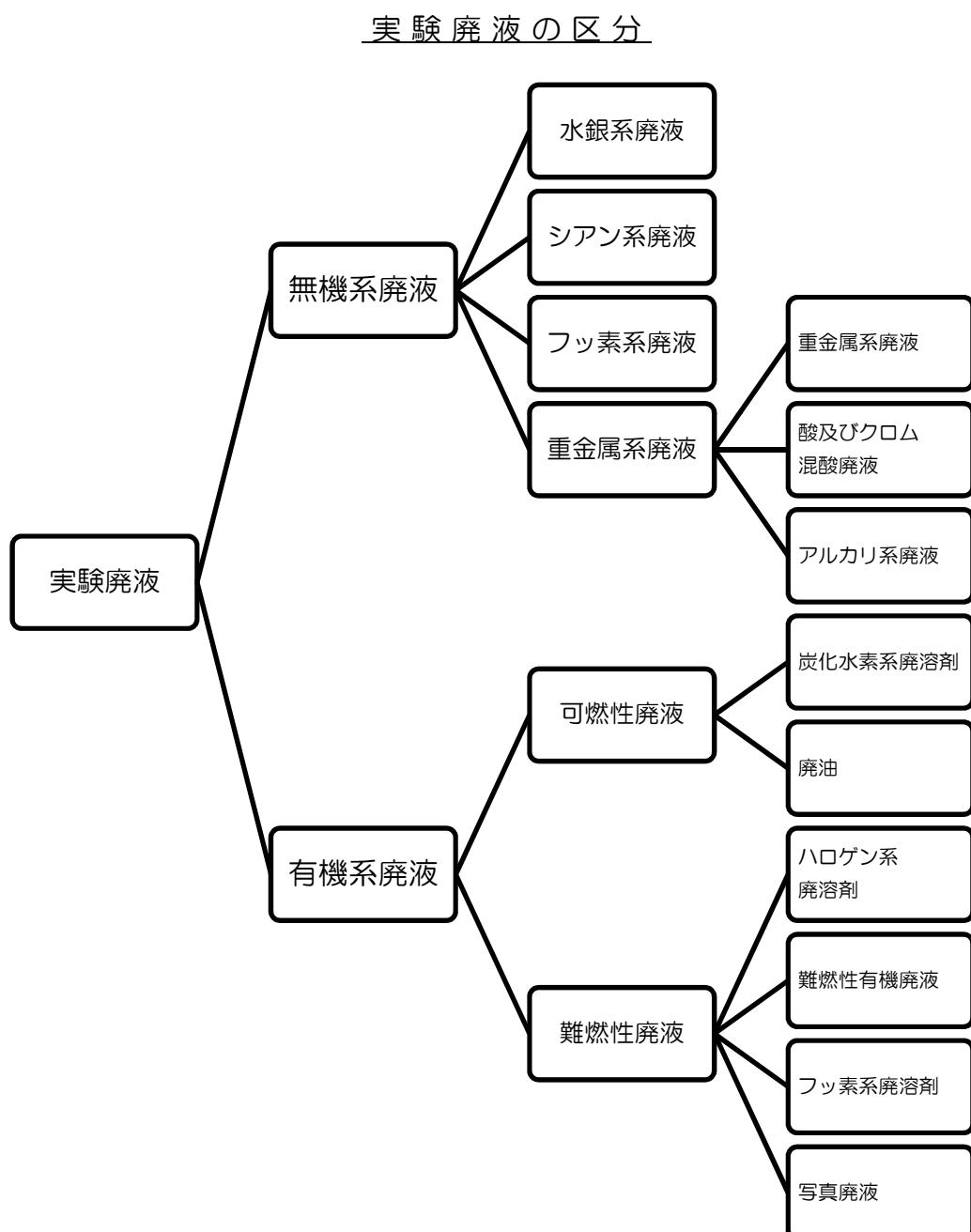
長岡技術科学大学 実験廃液分別マニュアル

1. 実験廃液の区分	1
実験廃液の分別収集区分の早見表	2
実験廃液分別収集区分表	6
2. 実験廃液の収集と処理依頼方法	7
実験廃液発生から処理・処分までのフローチャート	9
3. 実験廃液のポリ容器で一緒に入れてはいけない薬品の組み合わせ例	10
資料	
様式1 実験廃液分別貯留記録台帳	11
様式2 実験廃液分別貯留記録台帳	12
様式3 実験廃液処理依頼票	13
記入例	14
廃液保管庫 位置図	15

1. 実験廃液の区分

本学では、研究や学生実験で発生する実験廃液を無機系・有機系の2種類に大別し、さらに12区分に従って細かく分別しています。分別貯留された実験廃液は、一旦、各系学内共同研究施設ごとに設置された、廃液保管庫に搬入・保管し、排出者の処理依頼票に基づき、定期的に（2ヶ月に1回程度）専門業者に委託し、学外処理を行っています。

実験室で発生した実験廃液は、その内容をよく知っている実験者本人が適正な分別を行うことにより、初めて実験廃液として出すことが出来ます。この初期分別がいい加減だったり、区別の異なるタンクに水銀等の重金属が混入すると、後の処理がきわめて困難になります。さらに、処理費用の大幅な増大や排水基準を超過する危険を招きます。実験廃液は区分表に従って分別し、他の廃液と混合してはなりません。さらにタンクごとにどのような廃液をいつ・誰がどれだけ投入したのかの回収履歴記録する必要があります。



実験廃液分別収集区分表



本学より貸与する容器を示します。
※納入時期により、タンクの色が変わる場合があります。

A分類 <水銀系廃液>

種類	水銀系廃液 ※2回目までの洗浄廃液を含める	ポリ容器				タグ	
対象	1. 無機系水銀廃液 2. 有機系水銀廃液 3. 水銀系廃液で、シアンを含むもの。→「含シアン」と明示する。 4. 水銀系廃液で、重金属を含むもの。→「含ヒ素」、「含銅」などと明示する。						
摘要	1. 金属水銀、アマルガム水銀、不要になった水銀系試薬、劇薬は除く。→別途処理						
注意	1. 水銀イオン濃度は廃液18Lに対して1000ppm以下にする。 2. 沈殿物があれば濾過する。						

B分類 <シアン系廃液>

種類	シアン系廃液 ※2回目までの洗浄廃液を含める	ポリ容器				タグ	
対象	1. 遊離シアン廃液で、pH 11以上で保管されているもの。 2. 遊離シアン系廃液で、重金属を含むもの。→「含カドミウム」などと明示する。						
摘要	1. 難分解シアン錯体、 $R_Ag(CN)_2$ 、 $R_2Ni(CN)_4$ 、 $R_3Cu(CN)_4$ 、 $RAu(CN)_2$ 、 $R_3Fe(CN)_6$ 、 $R_4Fe(CN)_6$ 、 $R_3Co(CN)_6$ などの電離定数 10^{-21} 以下のものは難燃性有機廃液とする。(FⅡ分類) 2. 有機系シアン化合物(液)は、難燃性有機廃液とする。(FⅡ分類)						
注意	1. シアン系廃液は原則として、原点処理である。シアン分解経験者、分解に必要な安全設備のない場合に限り、持ち込み可。 2. シアン錯体固体物、シアン系廃液の濾過残渣などは、有害固体廃棄物として、貯留すること。→別途処理 3. 遊離シアン廃液は、酸性にすると毒性のシアン化水素ガス発生するので、必ずアルカリ性で保管し、運搬すること。 4. 発生から排出の経緯を明示すること。 5. pHを明示すること。						

C分類 <フッ素系廃液>

種類	フッ素系廃液 ※2回目までの洗浄廃液を含める	ポリ容器				タグ	
対象	1. フッ化水素酸、エッチング廃液 2. 無機リン酸廃液 3. フッ素・リン酸系廃液に重金属を含むもの。→「含六価クロム」、「含ニッケル」などと明示する。						
摘要	1. すでに沈殿物としてカルシウム塩になっているものは、その沈殿物に含まれる重金属類をはっきりさせた上で実験廃棄物として保管する。→別途処分 2. エッチング廃液は、混入の可能性のある金属を明示する。 3. ガス発生が見られるときは、ガスの発生が止まってから排出する。						
注意	1. フッ化水素の蒸気吸入で肺水腫、皮膚付着で出血性潰瘍を起こすので、要注意。 場合に限り、持ち込み可。 2. 全重金属イオン濃度は、廃液18Lに対して5000ppm以下にする。						

D分類 <重金属系廃液>

種類	D I 重金属系廃液 ※2回目までの洗浄廃液を含める	ポリ容器				タグ	
対象	1. Fe、Ni、Co、Zn、Cu、Mn、Cd、Pb、Ga、Cr、V、Ti、Ge、Snなどの重金属の廃液 2. As100ppm以下の廃液 3. Al、Mgなどの金属廃液						
摘要	1. 発ガン性物質（例：Be）、神経系障害物質（例：Ti）、粘膜皮膚障害物質（例：Os）などの作業者の健康障害を起こす化学物質は除く。これらは、排出者の責任で発生源で安全化処理すること。 2. 放射性同位元素及びこれに汚染したものは、R I センターに相談する。 3. ニッケルカルボニル、アルキルアルミニウムなどの猛毒物質は、排出者の責任で無害化してから重金属系廃液に入れること。						
注意	1. 全重金属イオン濃度は廃液18Lに対して5000ppm以下にする。 2. 有機物が混入した場合は、難燃性有機廃液とする。（F II 分類）						

D分類 <重金属系廃液>

種類	D II 酸及びクロム混酸廃液 ※2回目までの洗浄廃液を含める	ポリ容器				タグ	
対象	1. 塩酸、硫酸、硝酸などの無機酸の廃液。 2. クロム酸一硫酸混液の廃液。						
摘要	1. クロム酸-リン酸混液の廃液は、六価クロムをチオ硫酸ナトリウム等の還元剤で三価クロムにした後、C分類として排出する。 2. 有害物を含まない塩酸、硝酸の希薄廃液（5%以下）は、アルカリ中和して、多量の水で希釈放流して可。 3. 3回目以降の洗浄廃液はアルカリ中和して、多量の水で希釈放流して可。 4. フッ素・リン酸系廃液は、C分類に入れること。 5. 青酸系は、B分類に入れること。 6. 有機酸（トリフロロ酢酸などフッ素を含むものも含む）は、F I 又はF II 分類に入れること。						
注意	1. 沈殿物がある場合は濾過し、実験廃棄物として貯留すること。→別途処理						

D分類 <重金属系廃液>

種類	D III アルカリ系廃液	ポリ容器				タグ	
対象	1. 水酸化ナトリウム、水酸化カリウムなどの廃液 2. 炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなどの廃液						
摘要	1. 水酸化カルシウム系廃液は、C分類に入れること。 2. 水酸化マグネシウム系廃液は、D I 分類に入れること。 3. アミン類水溶液は、F II 分類に入れること。 4. 有害物を含まないアルカリの希薄廃液（5%以下）は、酸中和して、多量の水で希釈放流して可。						
注意							

E分類 <可燃性廃液>

種類	E I 炭化水素系廃溶剤（水を含まないもの）	ポリ容器	 	火気厳禁表示	タグ	
対象	1. 脂肪族炭化水素 石油エーテル、ヘキサン、ヘフタン、オクタンなどの廃溶剤 2. 脂肪族酸素化合物 アセタール、アルコール類、アセトン、エチルメチルケトン、酢酸エステル類などの廃溶剤 3. 脂肪族含窒化合物 アセトニトリルなどの廃溶剤 4. 芳香族化合物 ベンゼン、トルエン、キシレン、スチレンなどの廃溶剤 5. 芳香族含窒化合物 ピリジンなどの廃溶剤 以上の廃溶剤中に爆発性を有しない少量の中性有機物（アミド、エステル類など）を含むものは可。					
摘要	1. ジエチルエーテル、ジオキサン、イソプロブレーテル、アセトアルデヒド、テトラヒドロフランなど過酸化物をつくり易いものは除く。これらについては原点処理（所轄消防署の許可をとって、屋外で焼却処理） 2. 爆発性物質 N—O結合、N—N結合、N—X結合、O—O結合、O—X結合をもつもの。その他アセチレンとその誘導体などを含むものは除く。これらについては排出者の責任で安全化、無害化処理する。					
注意	1. 沈殿物がある場合は濾過し、実験廃棄物として貯留すること。→別途処理					

E分類 <可燃性廃液>

種類	E II 廃油（水を含まないもの）	ポリ容器	 	火気厳禁表示	タグ	
対象	1. 灯油、ミネラルスピリット、軽油、テレピン油などの廃油 2. 重油、クレオソート油、スピンドル油、ターピン油、変圧器油などの廃油 3. ギヤー油、モーター油などの廃油 4. 動植物油（液）などの廃液 以上の廃油中に爆発性を有しない少量の中性有機物（アミド、エステル類など）を含むものは可					
摘要	1. 変圧器油のうち、P C B及びP C Bを含むものは除く。 P C Bは別の法律によって厳しく規制されている。					
注意	1. 高粘度の廃油は灯油などで粘度を下げ、20cp以下にすること。 2. 沈殿物がある場合は濾過し、実験廃棄物として貯留すること。→別途処理					

F分類 <難燃性廃液>

種類	F I 分類 ハロゲン系廃溶剤（水を含まないもの）	ポリ容器	 	タグ	
対象	1. 脂肪族ハロゲン系化合物 クロロホルム、塩化メチル、ジクロロメタン、四塩化炭素、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1-1-1-ト リクロロエタン、臭化メチル、沃化メチルなどの廃溶剤 2. 芳香族ハロゲン系化合物 クロロベンゼン、塩化ベンジルなどの廃溶剤 以上の廃溶剤中に爆発性を有しない少量の中性有機物（アミド、エステル類など）を含むものは可。				
摘要	1. PCB及びPCBを含むものは除く。 2. 爆発性物質 N-O結合、N-N結合、N-X結合、O-O結合、O-X結合をもつもの。 その他アセチレンとその誘導体などを含むものは除く。これらについては排出者の責任で安全化、無害化処理すること。				
注意	1. 沈殿物がある場合は濾過し、実験廃棄物として貯留すること。→別途処理				

F分類 <難燃性廃液>

種類	F II 難燃性有機廃液（水を含むもの）	ポリ容器	 	タグ	
対象	1. 炭化水素系、ハロゲン系廃溶剤5%以上を含む水混合廃液 2. 有機酸、アミン類など5%以上を含む水混合廃液 3. 他の有機化合物の水溶液廃液 4. 難分解性シアン錯体の廃液（赤血塩、黄血塩等） 5. 有機シアン化合物の廃液 6. 有機金属系（例：金属キレート化合物）の廃液				
摘要	1. 水分95%以上で有害物を含まず、生分解性のもの（アルコール類、脂肪酸、糖類、アミノ酸、ペプチド、アセトンなど） は、当面放流して可。 2. 有機金属系廃液のうち、水銀系の廃液は、A分類に入れること。 3. PCB及びPCBを含むものは除く。				
注意	1. pHを明示すること。				

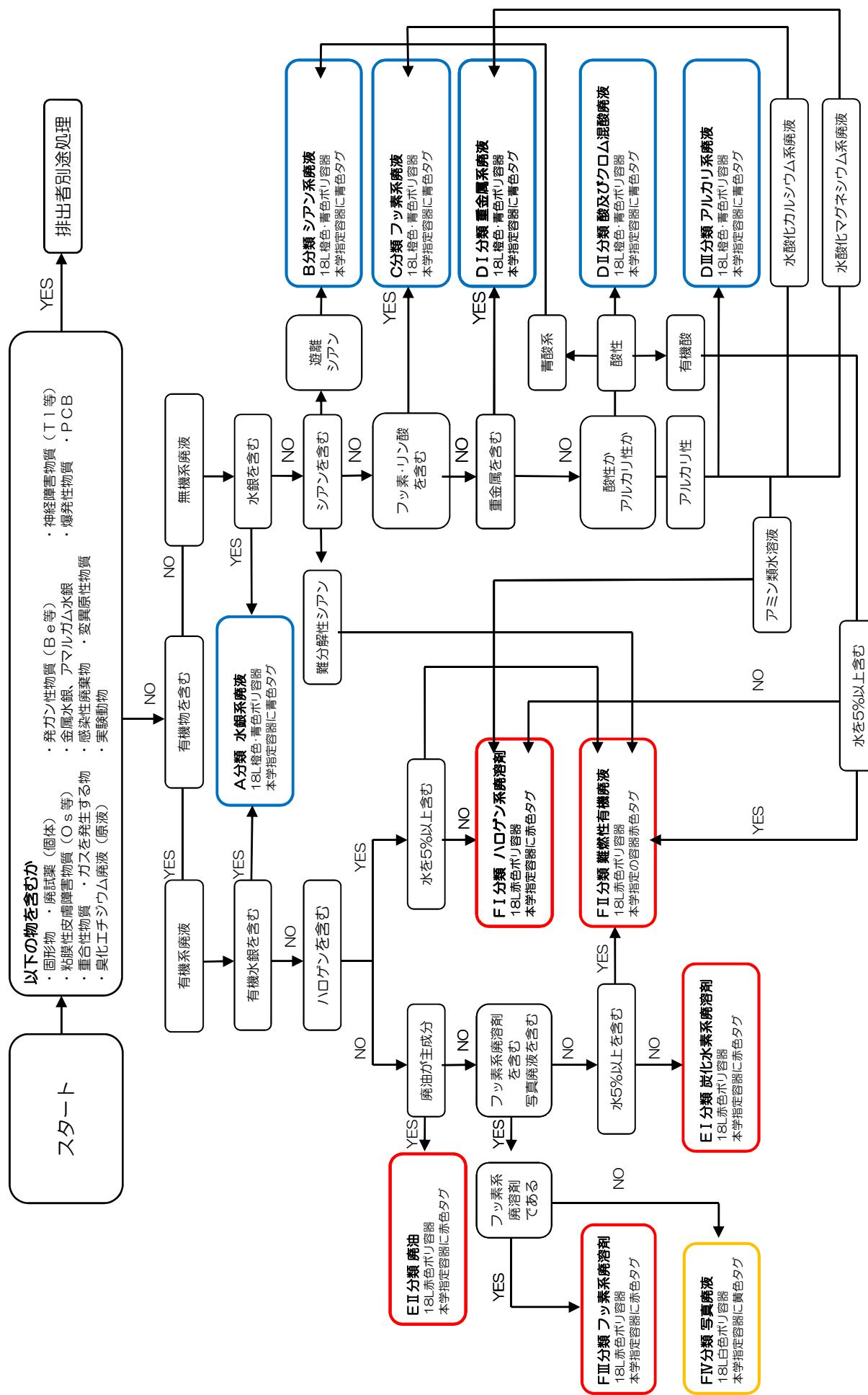
F分類 <難燃性廃液>

種類	F III フッ素系廃溶剤	ポリ容器	 	タグ	
対象	1. 芳香族、フッ素化合物 フルオロトルエン、フルオロフェノール、フルオロベンゼンなどの廃液 2. 他のフッ素含有溶剤 フルオロエタノール				
摘要	1. フロンガスは除く。（別途専門業者にて回収）				
注意					

F分類 <難燃性廃液>

種類	F IV 写真廃液	ポリ容器	 	タグ	
対象	1. 現像・停止廃液 2. 定着廃液				
摘要					
注意	1. 現像・停止廃液と定着液を混合させないこと。				

実験廃液の分別収集区分のための早見表



2. 実験廃液の収集と処理依頼方法

(1) 実験廃液収集容器の申込・受取

実験廃液収集容器を支給しますので、以下の要領で申し込みをしてください。収集容器は、容器の種類や数量によっては予定どおりに用意できない場合がありますので、あらかじめ時間の余裕をみて依頼してください。

各研究室で所有の橙色・青色・赤色・白色の収集容器は継続して使用できます。ただし、回収後返却出来ませんので、ご了承下さい。

申込方法

容器区分と本数を確認の上、施設管理課 管理保全係までご連絡下さい。（内線：9234）

(2) 実験廃液の分別収集

- 「実験廃液分別収集区分表」（P2～5）、「実験廃液の分別収集区分の早見表」（P6）に従い指定された収集容器にそれぞれ収集してください。
- 投入量は容器容量の80%程度としてください。
- 廃液を容器に入れるときは、その都度、様式1・2の「実験廃液分別貯留記録台帳」に、必要事項を記入してください。

(3) 廃液保管庫への搬入

廃液を廃液保管庫へ搬入する際には、「実験廃液分別貯留記録台帳」・「実験廃液処理依頼票」が必要です。依頼票は処理するにあたって大切な資料となります。出来るだけ多く情報（廃液の経緯）を詳細に、かつ丁寧に書き込んでください。

1) 実験廃液処理依頼票の作成

収集容器ごとに「実験廃液処理依頼票」を作成し（3部）、必要事項を記入してください。作成した依頼票は、①容器に貼付、②施設管理課へ提出、③排出源の控えとします。

また、「実験廃液分別貯留記録台帳」は、2部写しを作成し、原本は排出源控え、写し1部は取扱管理責任者に提出、写し1部は施設管理課に処理依頼票と共に提出とします。

記入上の注意

- 廃液に関する情報はできるだけ詳細に記入すること。（記入例参照）
- ボールペンで読みやすい字、排出者自身が書くこと。
- 化学式・略称・商品名での記載は避けること。
- 内容物は正確、かつ詳細に記入すること。
- 水溶液にはpHを記入すること。

2) 搬入

「実験廃液分別貯留記録台帳」・「実験廃液処理依頼票」が受理された後、各系・センターの廃液保管庫へ搬入します。搬入に際しては、事故のないように必ず複数名で運搬してください。

(4) ポリ容器の外観

参考例



分別用タグ

青：無機系廃液

赤：有機系廃液（写真廃液除く）

黄：写真廃液

実験廃液処理依頼票

・剥がれないようにガムテープでしっかりと貼る

・表示が消えないよう、注ぎ口と反対の面に貼る

悪い例



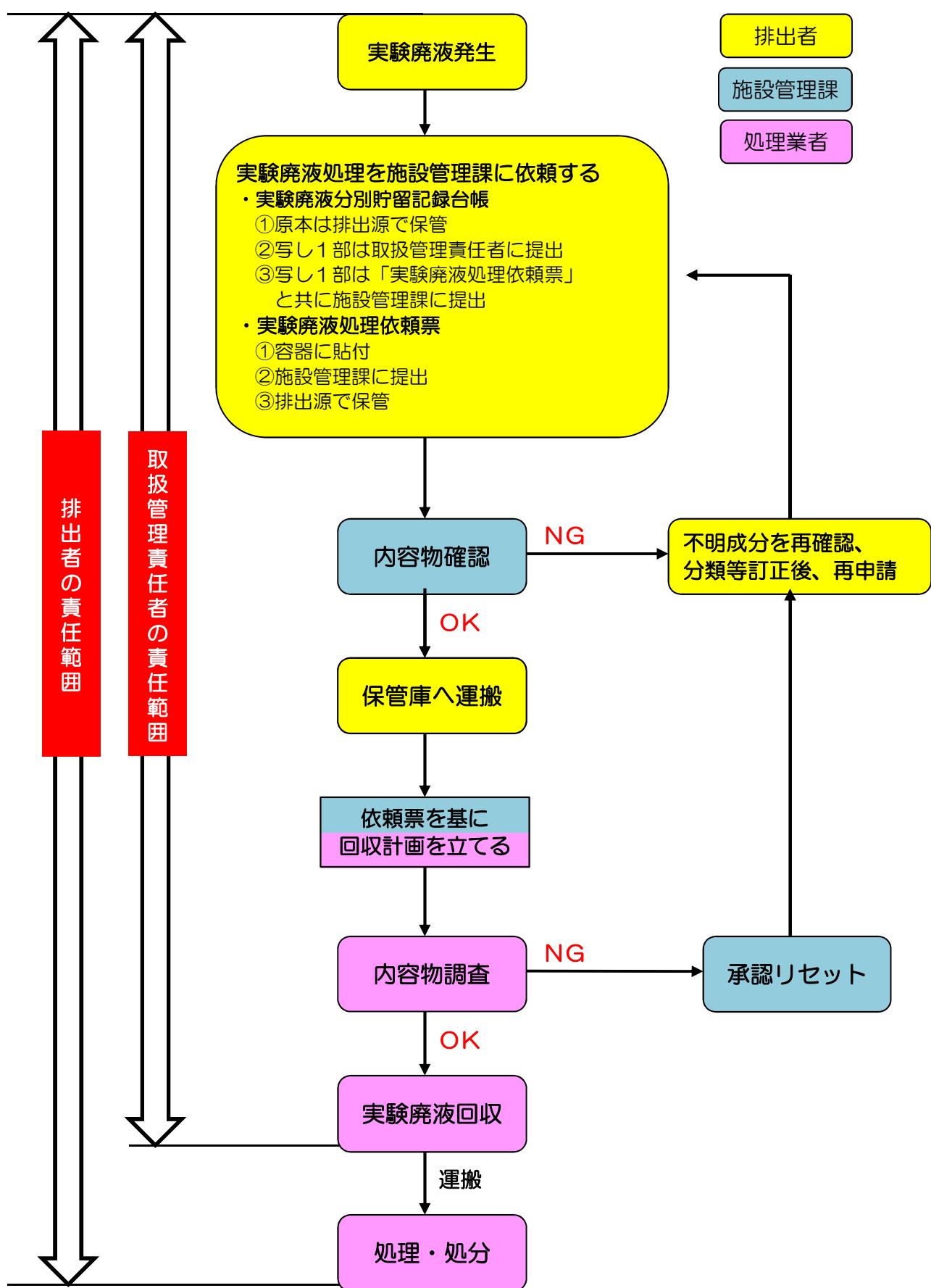
分別用タグがついていない

実験廃液処理依頼票がガムテープでしっかりと貼られていない



指定の容器に入っていない

実験廃液発生から処理・処分までのフローチャート



3. 実験廃液のポリ容器で一緒に入れてはいけない薬品の組み合わせ例

洗剤に「混ぜるな危険」という表示があるのを目にしたことがあると思います。これは、「塩素系漂白剤と酸性洗剤を混ぜると有毒なガスが発生するので危険です。」という意味です。

実験廃液においても、反応性の薬品を不用意に混合すると、発熱やガス発生、発火・爆発に至ることもあります。下記に示す例示を参考にして、廃液を安全に回収しましょう。

化学物質名	混触危険物質名の例
アジ化ナトリウム	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、過マンガン酸カリウム、硝酸
亜硝酸カリウム	ジエチルエーテル、二硫化炭素、アセトン、トルエン、エタノール、アニリン、塩化アンモニウム
アセトニトリル	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
アセトン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
アニリン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、二トロメタン
アンモニア水	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、過マンガン酸カリウム
イソプロパノール	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
エタノール	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、硝酸銀
エチレンジアミン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
塩化アセチル	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
塩化アンモニウム	硝酸メチル、ジニトロベンゼン、ピクリン酸、亜硝酸ナトリウム、塩素酸カリウム、過酸化水素
塩化ベンゾイル	塩素酸カリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、ジメチルスルホキシド
三塩化りん、五塩化りん	ナトリウム、カリウム、マグネシウム、過酸化ナトリウム、硝酸、ニトロベンゼン
塩素酸カリウム	硫黄、金属粉末、りん、ナトリウム、有機溶剤全般、塩化アンモニウム、濃アンモニア水
過塩素酸	りん、硫黄、アルミニウム、マグネシウム、全ての有機物、炭素、硫酸、五酸化二りん
過塩素酸塩類	りん、硫黄、アルミニウム、マグネシウム、鉄粉、ナトリウム、全ての有機物、炭素
過酸化水素	硫黄、金属粉末、りん、ナトリウム、有機溶剤全般、ヒドラシン、過酢酸、酸化水銀（I、II）
過マンガン酸カリウム	アルミニウム、マグネシウム、二硫化炭素、硫酸、ヒドロキシリアルミン、ジメチルスルホキシド
グリセリン	塩素酸カリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、過マンガン酸カリウム
クロロホルム	アルミニウム、マグネシウム、ナトリウム、硝酸メチル、リチウム、過酸化水素
酢酸	塩素酸カリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、過マンガン酸カリウム
酢酸エチル	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、過塩素酸
次亜塩素酸ナトリウム	硫黄、金属粉末、りん、ナトリウム、有機溶剤全般、アニリン、アミン類、エチレングリコール
ジエチル亜鉛	水、空気、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、硫酸
ジエチルエーテル	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
ジエチル硫酸	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、過塩素酸
四塩化炭素	過塩素酸ナトリウム、アルミニウム、マグネシウム、カリウム、ナトリウム、リチウム
ジニトロベンゼン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、過酸化ベンゾイル、アルミニウム、硝酸、水酸化ナトリウム
ジメチルスルホキシド	過塩素酸マグネシウム、過塩素酸、水酸化ナトリウム、過マンガン酸カリウム、クロロベンゼン
N,N-ジメチルホルムアミド	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
臭素	アセチレン、アンモニア、アジ化ナトリウム、ジニトロアニリン、アルミニウム、アクリロニトリル
硝酸	マグネシウム、ナトリウム、ジエチルエーテル、アセトニトリル、アセトン、エタノール、アミン類
硝酸ナトリウム	りん、硫黄、アルミニウム、ジエチルエーテル、二硫化炭素、アセトン、アニリン、無水酢酸
水酸化カリウム	ニトロメタン、ニトロエタン、トリニトロトルエン、トリクロロエチレン、ニトロベンゼン+ベンズアントロン
水素化ホウ素ナトリウム	ジメチルスルホキシド、硫酸、水、四塩化炭素、硫黄、クロロベンゼン、グリセリン
チオ硫酸ナトリウム	マグネシウム、アルミニウム、硝酸カリウム、亜硝酸ナトリウム、クロロベンゼン
テトラヒドロフラン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
トリエチルアルミニウム	空気、水、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
金属ナトリウム	水、硝酸アンモニウム、硫黄、無機酸全て、塩化鉄（III）、ヒドロキシリアルミン、有機塩素化合物
ニトロベンゼン	塩素酸ナトリウム、テトラニトロメタン、アニリン、キノリン、硝酸、硫酸、塩化アルミニウム
ニトロメタン	塩素酸ナトリウム、過塩素酸塩類、過酸化水素、硝酸塩類、無機酸、水酸化アルカリ、アルミニウム
二硫化炭素	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、アジ化ナトリウム
ヒドラシン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、ナトリウム、硝酸銀
ピリシン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、ホルムアミド
フェノール	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、塩化アルミニウム
フッ化水素酸	ナトリウム、硝酸メチル、アンモニア水、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、過酸化ベンゾイル
ベンゼン	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
無水酢酸	塩素酸ナトリウム、過酸化ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸
メタノール	塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸、次亜塩素酸ナトリウム
硫酸	ナトリウム、ニトロアニリン、硝酸メチル、ピクリン酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素

参考書籍：東京消防庁編 「化学薬品の混触危険ハンドブック、第2版」 日刊工業新聞社（1997）

フレスリック 著、田村昌三 監訳 「危険物ハンドブック、第5版」 丸善（1998）

東京消防庁 警防研究会監修 「第2版 危険物データブック」 丸善（1993）

寒験瘡液分別貯留記録台帳

- 排出前のチェック
- 容器は破損していないか
- フタ(パッキン)は破損していないか
- 液量は適正か
- 廃液分類と容器の色は合っているか

提出先	<ul style="list-style-type: none"> ・排出原にて保管 ・取扱管理責任者に提出 ・施設管理課へ「実験廃液処理依頼票」と共に提出
記入上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・排出者は楷書で姓名をはつきり署名すること ・廃液を投入する都度、投入手本人が記入すること ・商品名・略称・化学式での記入は避けること

實驗廢液分別貯存記錄表

＜発生の経緯＞

卷之二

帳台 No.

排出前のチェック

- 容器は破損していないか
- フタ(パッキン)は破損
- 液量は適正か
- 廃液分類など容器の色は合

- ・提出先
- ・排出源にて保管
- ・取扱管理責任者に提出
- ・施設管理課へ「実験废弃物」

記入上の注意
・廃液を投入
・商品名・略号

記入上の注意
・廃液を投入する都度、投入手本人が記入すること
・商品名・略称・化学式での記入は避けること

< 実験廃液処理依頼票 >

3
樣式

記入上の注意

- ・排出者は楷書で姓名をはっきり署名すること
- ・商品名・略称・化学式での記入は避けること

記入例

<実験廃液処理依頼票>				・違う容器で同じNo.を使用しない		
○○○ 系・センター		研究室名	○○○研究室		電話番号	○○○○
排出源整理No.		整理No.			貯留記録台帳No.	○○○○-1
この実験廃液は下記内容に相違ありません。排出責任を負いますので、処理方お願いいたします。 排出責任者氏名 ○○○○印						

内 容 物 の 明 細					
成 分 の 名 称	成 分 の 割 合				
酢酸エチル	廃液中に含まれる物質は 全て記入すること（微量成分も分かる範囲で）	11.0%			
アセトン		17.0%			
メタノール		22.0%			
エタノール		33.0%			
THF	商品名・略称・化学式での記入は避けること	11.0%			
DMF		6.0%			
発生の経緯取扱の注意事項など					
記入上の注意 容器ごとに「実験廃液処理依頼票」を作成する。依頼票は3部作成し、 ①容器貼付（ボリ容器にガムテープで貼付する） ②施設管理課へ提出 ③排出源控え（排出記録として、5か年保管）とする。				容器保管場所 ○○棟 廃液保管庫	

分類
E I
量
18.0L
pH

水溶液は必ずpHを記入すること

<実験廃液分別貯留記録台帳>		処理依頼年月日	平成○○年○○月○○日	台帳No.	○○○○-1	
貯留区分 (当該区分を○で囲む)	無機系廃液	A 水銀系廃液	B シアン系廃液	C フッ素系廃液		
		D I 重金属系廃液	D II 酸系廃液	D III アルカリ系廃液		
	有機系廃液	可燃性廃液	E I 炭化水素系廃溶剤	E II 廃油		
	難燃性廃液	F I ハロゲン系廃溶剤	F II 難燃性有機廃液	F III フッ素系廃溶剤	F IV 写真廃液	
○○○ 系・センター		容器番号			取扱管理責任者	○○○○印
研究室名	○○○研究室	電話番号	○○○○		排出責任者	□□□□印

年月日	内容物質(危険物は赤丸)	投入量(L)	濃度(g/L)	投入者氏名	備考(危険物質の表示・経緯等)
H00.00.00	酢酸エチル	2		○○一郎	
H00.00.00	アセトン	3		○○二郎	
H00.00.00	メタノール	4		○○三郎	廃液を投入する都度、投入者本人が記入すること
H00.00.00	エタノール	6		○○四郎	
H00.00.00	THF	2		○○五郎	
H00.00.00	DMF	1		○○花子	

排出前のチェック

- 容器は破損していないか
- フタ(パッキン)は破損していないか
- 液量は適正か
- 廃液分類と容器の色は合っているか

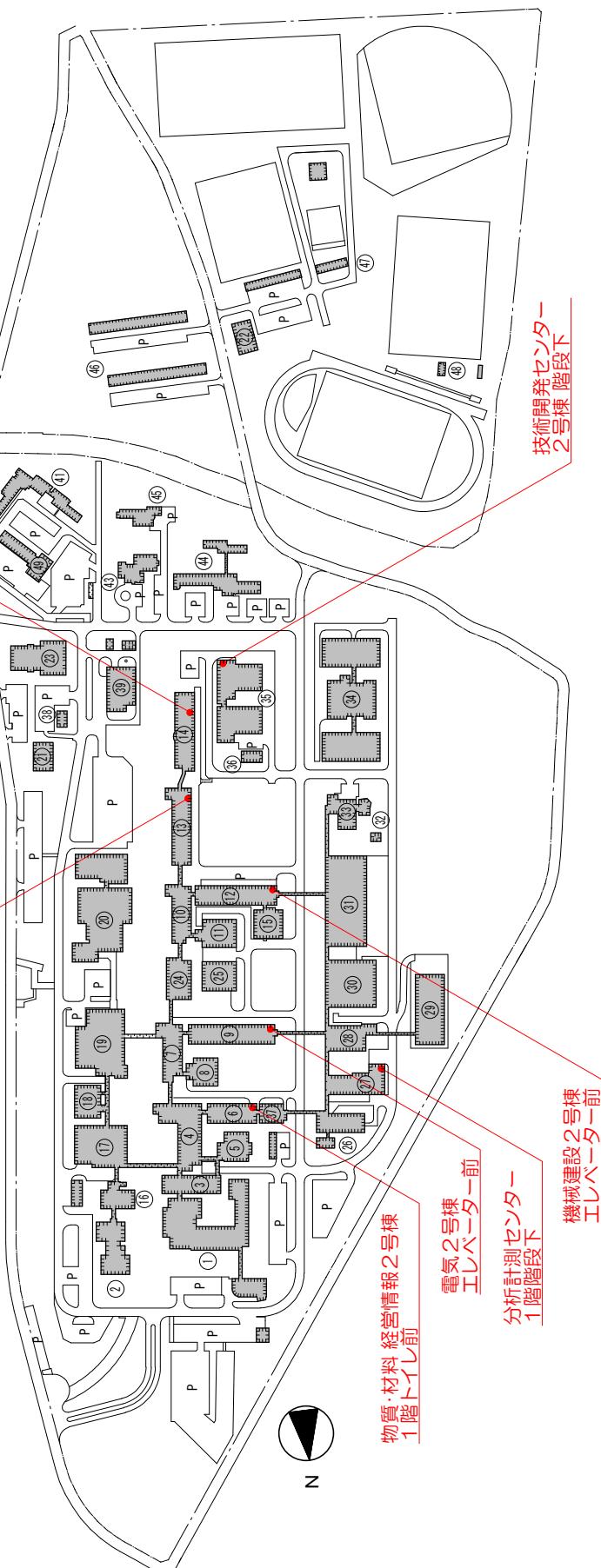
提出先

- ・排出源にて保管
- ・取扱管理責任者に提出
- ・施設管理課へ「実験廃液処理依頼票」と共に提出

記入上の注意

- ・排出者は楷書で姓名をはっきり署名すること
- ・廃液を投入する都度、投入者本人が記入すること
- ・商品名・略称・化学式での記入は避けること

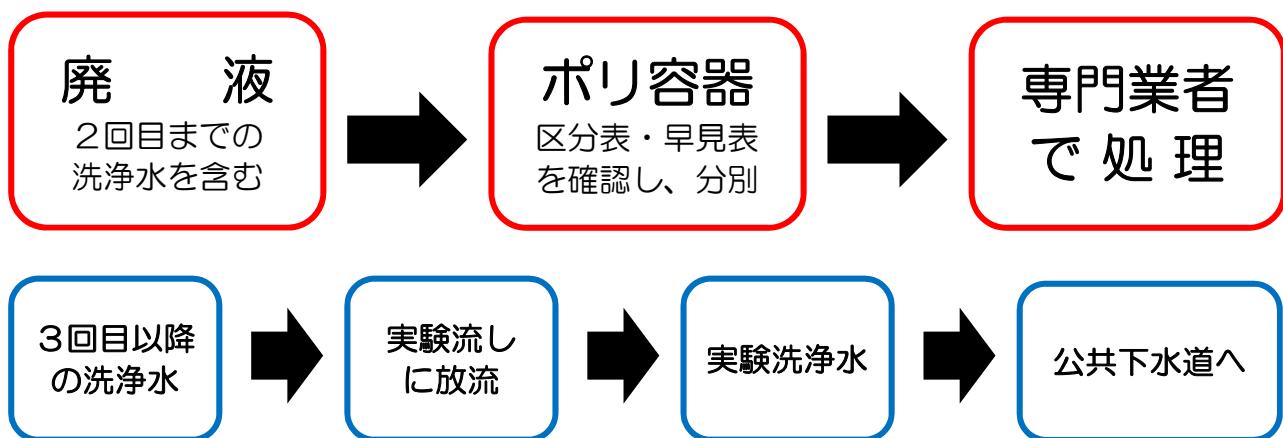
廃液保管庫位置図



No	建物名称	構造	面積	No	建物名称	構造	面積	No	建物名称	構造	面積
1	講義棟	RC3	5,324	18	マルチメディアシステムセンター	SR2	612	35	技術開発センター	RC2	2,180
2	事務局	RC3	2,254	19	福利棟	RC2	2,155	36	高圧実験施設	RS1	115
3	総合研究棟	SR7	3,874	20	体育保健センター・ブール	RC2	3,242	37	物理化学実験棟	RC3	836
4	物質材料経営情報1号棟	RC6	5,492	21	課外活動共用施設	RC1	298	38	大学集会施設	RC1	72
5	物質材料経営情報3号棟	RC3	1,400	22	クラブハウス	RC2	446	39	エネルギーセンター等	RC1	808
6	物質材料経営情報2号棟	RC6	2,726	23	セコムホール	RC2	937	40	実験廃液処理施設等	RC2	1,041
7	電気1号棟	RC6	3,882	24	情報処理センター	RC2	1,098	41	学生宿舎1・2号棟	RC5	6,615
8	電気3号棟	RC4	1,885	25	機械建設4号棟	RC1	556	42	学生宿舎公用棟	RC1	601
9	電気2号棟	RC6	5,895	26	R1センター	RC1	679	43	国際交流会館	RC2	582
10	機械建設1号棟	SR8	5,090	27	分析計測センター	RC2	1,472	44	国際学生宿舎	RC3	1,953
11	機械建設3号棟	RC5	2,980	28	機械建設電気工学科研究棟	RC2	833	45	国際学生宿舎	RC5	1,192
12	機械建設2号棟	SR8	7,293	29	機械建設電気工学科研究棟	SR2	1,603	46	職員宿舎	RC1	5,414
13	生物1号棟	SR7	6,064	30	公用実験棟	RC1	1,299	47	体育器具庫	GB1	342
14	環境システム棟	SR7	6,053	31	大型実験棟	RS1	2,146	48	弓道場	RC1	63
15	博士課程1号棟	RC6	1,941	32	無エネルギー実験施設	RC2	96	49	30周年記念学生宿舎	RC3-S1	885
16	事務局2号棟	RC2	864	33	音響振動工学科実験室	RC1	504				
17	図書館	RC3	3,146	34	実験実習1・2号棟、工作室	RC2	3,400				

実験室で廃液が発生

廃液はどこに捨てるの？流しに流すことができるの？



各系・センター取扱管理責任者

実験廃液に関する問い合わせ：施設管理課 管理保全係 内線：9234